

JICA 難民企画展

人道の港

敦賀ムゼウム

TODAY, MY I LOST HOME

— 想像していなかった今日を生きる —



2026年6月20日(土)~12月20日(日)

◎開館時間 午前9時~午後5時(入館は閉館30分前まで) ◎休館日 毎週水曜日(祝日の場合は翌日)・10月15日・11月2日

主催:人道の港 敦賀ムゼウム 共催:JICA北陸 協力:UNHCR駐日事務所 一般社団法人 社会教育サポート

TODAY, I LOST MY HOME

— 想像していなかった今日を生きる —

世界各地では、紛争、迫害、貧困、災害などを背景に、日本の総人口にほぼ匹敵する数の人々が故郷を追われています。かつてナチス・ドイツ等の迫害を逃れ、「命のビザ」を携えたユダヤ難民が敦賀港に上陸した史実が物語るように、古くから難民問題は国際社会における深刻で重要な課題でした。本展では、「難民とは」という基本的な問いに対する理解を深めるだけでなく、

「もし、ある日突然 自分が難民になったら？」

という設定のもと、一人ひとりが難民の立場に立ってさまざまな緊迫した場面で選択や判断を重ね、難民の人々が置かれている切実な状況を疑似体験することができます。

家族、友人、言語、文化…昨日までの“当たり前”がうばわれ、予測できない日々を生きることになったら、あなたは何を感じ、どう生きる道を選ぶでしょうか？

もう1人のあなたの人生が始まります。

このパスポートで展示会場を回ります。

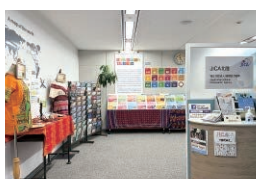


©UNHCR/Amanda Jufrian
危険な航海ののち、バングラデシュからインドネシアに到着し荷物を降ろしているロヒンギャ難民（インドネシア・2023年）



©UNHCR/Maciej Moskwa
現金支援の登録を待つウクライナからの難民（ポーランド・2022年）

～地域と世界をつなぐ、JICA北陸～



JICA北陸は富山県、石川県、福井県における国際協力の窓口として、自治体、大学、NGO、民間企業、市民の方々とともに、北陸の知見や技術を国際協力の現場で活かし、その経験やつながりを地域の活性化に結び付けています。「北陸の力を世界に、世界とのつながりを北陸の力に」、そんな思いをもつ方々と協働し、地域と途上国をつなぐ取り組みを行っています。ぜひお気軽にお問い合わせください。メールアドレス：jicahric@jica.go.jp



緒方貞子氏が日本人として初めてトップを務めた国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）は、難民の命を守り、保護する国連機関です。シリア・アフガニスタン・ウクライナなど世界中で家を追われた難民・国内避難民を支援・保護し、水や食料、毛布などの物資の配布や、難民キャンプなど避難場所の提供、保護者を失った子どもの心のケアなど、最前線で援助活動に尽力しています。

※敦賀市は、2022年に国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と自治体との連携強化を目指す「難民を支える自治体ネットワーク」に署名しています。



©UNHCR/Wahid Ahmad Enayat